

## 病院のお仕事いろいろ

常に  
「患者さんのために」  
と考えて



薬剤部  
AST専従薬剤師

岡田 直人  
(おかだ なおと)

病院で働く薬剤師の責務は、薬剤を使った治療が安全に行われるように管理することです。本院で多く使用される薬剤のひとつに「抗菌薬」があります。抗菌薬とは、簡単に言えばバイキンをやっつけるお薬です。本院で働く岡田薬剤師は、この抗菌薬の適正な使用を支援する「AST (Antimicrobial Stewardship Team)」というチームの専従薬剤師です。抗菌薬は適切に使用しないと、薬剤耐性菌という抗菌薬が効かない細菌を生み出すリスクがあります。薬剤耐性菌の出現を防ぐため、本院で特定の抗菌薬を使用する患者さんの治療にASTが介入し、診療科と協力して感染症の治療を行います。時季にもよりますが、毎日20人～40人ほどの患者さんの情報をチェックし、患者さんにとってより良いと考えられる薬を提案することもあります。「薬剤師は薬のソムリエです。治療に苦勞していた患者さんでも、薬ひとつ変えるだけでどんどん状態が良くなっていくのを見ると、ヨシ!という気持ちになりますね。」

と岡田さんは言います。同時になかなか治療効果が得られない場合でも、その理由をチームで検証し、改善に繋げていきます。「薬を選んで終わりではなく、その後も責任を持って診るように心がけています。特にASTは病院全体を見渡す必要があるので、現場の医師や看護師とも調和をとってチーム医療を体現しています。」全国的にも専従の薬剤師がASTに在籍していることは珍しく、今後は本院のASTの活動を可視化し、患者さん

や医療従事者へフィードバックするような広報活動をしたいと岡田薬剤師は考えています。



日本医療薬学会優秀  
演題賞受賞時  
(左)石澤薬剤部長  
(右)岡田薬剤師

治験を実施しています

現在、開発中の医薬品の候補(治験薬)を用いた治験を、以下の病気を対象に実施しています。参加いただいた患者さんにおけるデータを集め、有効性や安全性を確認して医薬品としての「承認」を得ることが治験の目的ですが、参加いただいた患者さんにとって良い効果をもたらす場合もあります。まずは、よく情報を得ていただきたいと思っておりますので、**お気軽にお問い合わせください。**

- 肺癌
- 腎細胞癌
- 尿路上皮癌
- 多発性骨髄腫
- 急性骨髄性白血病
- 脳梗塞
- くも膜下出血
- 大うつ病
- 筋萎縮性側索硬化症
- てんかん(成人)
- 前立腺癌
- 脊髄損傷後疼痛
- 掌蹠膿疱症
- 特発性肺繊維症
- 肝細胞癌

ご協力  
お願いします。



ちけん君は  
日本医師会治験促進センターの  
キャラクターです。

問合せ：臨床試験管理センター  
tel.088-633-9294